

トリセツ

— 鳥大説明書 —

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

人気サークルランキング!

今回のランキングは、6月1日現在において団体届を学生部生活支援課に提出した鳥取地区のサークルに限ります。()内は新規加入人数。



はたして鳥大内で今一番
人気のあるサークルは
一体どこなのか!

第1位

医進バレーボール
同好会 (41名)

体育系

第2位

フットサルサークル
(33名)

新入生がたくさん入ってくれたことをとても嬉しく思います。
今回1年生がたくさん入ってきてくれた秘訣は、サークル内に漂う明るい雰囲気と自然体で活動できる環境になっていることだと思います。
これからも今まで通り、週3回みんなで楽しくフットサルをしていきたいです。

八壁 一雅

じゃんけんでチーム決めをして試合をします。また、旅行や肝試しなどのイベントもあります。今回たくさん加入してくれたので賑やかで活気づいたと思います。1年生から4年生までみんなが仲の良い、いい雰囲気のサークルであり続けていきたいと思っています。



宮下 圭介

第3位

第三バスケット
ボール部 (32名)

基本的に、人数が揃い次第男女問わずチームを作り5対5で試合を行っています。
年に3回、バスケットサークルが集まって行く「天下一」という学内の大会に向けて、部員がそれぞれ楽しく競い合いながら活動しています。

坂板 駿



このコーナーは学生の親御さんから多く寄せられる「子どもたちの生活の様子が知りたい」という声をもとに誕生しました。鳥大のあらゆることをランキング形式にして紹介することで学生生活の様子をお伝えします！第4回となる今回は、新入生にどのサークルが人気なのかを今年度のサークル加入人数によって調査しました。そして各サークルの代表にコメントをもらいました。

第1位

JAZZ&FUSION
研究会 (62名)

サークル内でのライブ活動はもちろん、県内各地で行われる音楽イベントにも出演しています。ほかにも部会やキャンプ、不定期で球技大会などもしています。去年よりも新入部員が少ないですが、フレッシュな雰囲気に上級生も押され気味です(笑)
今年の抱負としては、ぼくたちの活動理念である地域貢献を活発に行っていききたいです。鳥大JAZZ研がジャズで鳥取を盛り上げます。



川畑 伸二

第1位

天文研究会
(62名)

入ってくれた1年生が、「雰囲気がいい」と言ってくれたことが嬉しかったです。今年は去年よりも流星群が多いので、晴れた日は積極的に活動していきたいです。晴れた夜には大学の屋上へ上がり、みんなで仲良く天体観測をしています。



太田 隆盛

文化系

第3位

落語研究会
(32名)

毎週火曜日・金曜日の夜に部会を行っています。
部会では部員たちがみな漫才やコント、そして落語の練習をしながら笑いを通して「人間力」の向上をモットーに頑張っています。

別所 潤



今回初めて記事を担当させていただきました。たくさんの方々の話を通じて鳥大のサークルの魅力に触れることができました。貴重な体験をありがとうございました。

(担当 飛知和)

初めての記事作成で、また1位が2つという予想外のことが起きりましたが、無事に完成できてよかったです。

(担当 ミケ田)

3 より多くの人の命を救う『救命救急センター』

救命救急センター(写真⑪)では、救急車・ヘリコプターで運ばれてきた急患を24時間態勢で治療しています。除染室も併設され、劇毒物や放射性物質に汚染された患者さんの汚染を取り除くことができ、不測の事態が発生した時の患者受け入れが可能です。また、ドクターカー(写真⑫⑬)も導入していて、医療をいち早く提供するため、医師・看護師を乗せて出動します。ドクターカーは、「動くICU(集中治療室)」と呼ばれていて、中には処置するための機材が多く積み、ベッドは衝撃を

吸収できるようになっています。昨年度は約370回(転院等を含め)出動されたそうです。他にも、附属病院にはヘリポート(写真⑭⑮)が整備されており、遠隔地や山間部からの搬送に使われています。鳥取県では、現在医師、看護師が同乗して、急患を運ぶことができるドクターヘリの導入を目指しており、附属病院が基地病院になる予定です。

ヘリコプターでは、鳥取-米子間(約100km)を約15分で運航することが可能になり、より多くの人の命を救うことができます。



写真⑪ 救命救急センター



写真⑫ ドクターカー外観



写真⑬ ドクターカー内観



写真⑭ ヘリポート



写真⑮ ヘリポートに到着したヘリコプター
説明していただいた森看護師長

4 臨床研究を世の中に活かす『次世代高度医療推進センター』

次世代高度医療推進センターの古賀先生にお話を伺いました。センターでは、附属病院内で行っている高度な臨床研究の成果を産業界にも活かして、新しいアイデアを実現する取り組みを行っています。例えば、新たな内視鏡の開発から生まれた鳥取大学独自の教育法「発明楽」。発明を生むスキルを小・中学生、高校生にも出前授業で伝えています。

今回は「発明楽」を楽しく学ぶことができる絵本(写真⑯⑰)を見せていただきました。医学・工学・農学が連携して、新しい医療に取り組んでいるそうです。



写真⑯ 発明楽の絵本



写真⑰ しかけが飛び出すので、楽しく学ぶことができます

実際に開発している車いす(写真⑱)に試乗しました。従来の車椅子は後ろ向きに座りますが、開発中の車いすは前向きに座ります。そうすることによりベッドから車いすに乗せるとき事故が起りにくくなります。現在民間企業と共同で実用化に取り組んでいます。

この車椅子は電動で高さを変えることもでき、レバーを倒すと電動で動くので看護師さんの負担軽減にもつながります。初めてでも簡単に操作することができ、移動が楽になると感じました。



写真⑱ 後向き電動車いす



説明していただいた古賀先生

5 『院内ツアー』への想いとは

もともと院外から、大学病院は敷居が高く、情報が少ないと思われていました。一方、附属病院内では、「日頃の取り組みを伝えたい・附属病院は地域で最高の治療ができる」と思われており、大きなギャップがありました。このギャップをなくしたいと考え、「院内ツアー」をはじめられたそうです。

このツアーでは、参加者に合わせたツアー内容にしています。最後に、学生広報スタッフの取り組みについて紹介し、広報活動の情報交換をして、今回のツアーは終了しました。

まとめ

今回、院内ツアーに参加させていただき、今まで入ったことのなかった手術室やヘリポートを見せていただき、附属病院の最新の取り組みを知ることができました。対応して下さった職員の皆さんは、通常業務中にもかかわらず、丁寧に対応していただき、鳥大病院が身近に感じ、「とりだい病院のファン」になりました。これからも附属病院の取組みに注目したいです。(担当 津田)



中海に臨む附属病院と大山

鳥取キャンパスで普段学んでいると、米子キャンパスにある医学部附属病院は近くて遠い存在です。今回は特別に附属病院の院内ツアーに参加しました。ご案内いただいたのは、広報・企画戦略センターの職員の方です(写真①)。

医学部附属病院(写真②)は39診療科、ベッド数697床を誇る山陰最大級の総合病院で、医学部医学科・生命科学科・保健学科の実習の場に使われています。

広報・企画戦略センターでは、地域社会に向けて附属病院が提供している医療を紹介する広報誌作成や市民公開講座の企画、プレスリリースなど附属病院の情報発信を通して、「とりだい病院のファン」を増やす取組みをされています。

鳥大見聞録

～医学部附属病院編～



写真② 医学部附属病院



写真① 広報・企画戦略センターの皆さん

1 米子キャンパスに到着!

鳥取キャンパスから約1時間半かけて附属病院に到着しました。今まで、大規模な総合病院に行ったことがなかったので、附属病院の大きさにびっくりしました。外来受付は診察を待つ患者さんでいっぱいでした。会議室で、院内ツアーの概要の説明を受けました。今回は附属病院が誇る最新の手術室や新しい取り組みを見学させていただけるようです。

学生広報スタッフ

START!!

白衣に着替えて
医師になった気分で見学スタートです!

吉本 津田 立岩

2 附属病院が誇る『最先端手術室』

最初に見学したのは、手術室です。手術室エリアに入るときには、靴にカバーをかけ、手指を消毒してから入ります。患者さんに安らぎを感じていただけるように、手術室エントランスは間接照明を採用し、壁が木目調になっているなど、ホテルをイメージしてつくられています(写真③)。また、患者さんに対して、手術室に入る前に7回もの本人確認を行い、患者さんの取り違えを防いでいます。他の病院ではなかなかありませんが、手術室前の廊下は窓に面しています。窓からは中海の景色を見ることができ、患者さんは緊張感をやわらげることができるそうです(写真④)。

一部の手術室は「日本海」や「鳥取砂丘」、中国地方最高峰の「大山」をイメージした内装になっています(写真⑤⑥⑦)。中に入れていただいた手術室では、写真奥の装置でレントゲン撮影をしながら、手術をすることができます(写真⑧)。

今回は手術をしている様子を見学室から、見学しました。手術には、執刀医・看護師だけではなく、麻酔医や臨床工学技士の協力なくして、手術を行うことはできませんとわかりました。

附属病院では全国に先駆けて、手術支援ロボット「ダヴィンチ」(写真⑨⑩)を使った手術に取り組んでいます。ダヴィンチ手術では、遠隔操作で手術を行うため、従来の手術よりも切る部分が小さくなり、手ブレが制御され、作業が速く正確になるため、患者さんの負担が少なくなります。



写真③ 手術室エントランス



写真④ 大きな窓のある手術室前の廊下



説明していただいた森田看護師長



写真⑤ 日本海をイメージした手術室



写真⑥ 鳥取砂丘をイメージした手術室



写真⑧ レントゲン撮影をしながら手術ができる手術室



写真⑨ ダヴィンチ手術風景



写真⑩ ダヴィンチを操作している様子



とりりん

LINEスタンププロジェクト

始動!

5月18日にLINEスタンププロジェクトを開始しました。

このプロジェクトは、鳥取大学のイメージキャラクターであるとりりんを用いたスタンプを作り、多くの人に使ってもらうことで知名度を上げることを目的としています。学内での応募で集まった5名と学生広報スタッフで、週に1回会議を行っています。



▲会議の様子

普段どのようなスタンプを多く使うのか、どんなスタンプがあれば使いやすいかといった話から、たくさんの案が出されました。例えば、“ありがとう”・“OK”などの誰でも使えるものから、“食堂なう”・“授業終わった”といった大学生ならではのスタンプ、さらに砂丘・梨などの鳥取の要素を含むようなスタンプまで様々な案が出ています。また、それらのスタンプの案に、既存の50ポーズあるとりりんの絵を活用

できないかなどを会議で話し合っています。それに加え、新たにとりりんのポーズを作るために、他のスタンプを参考にラフ画を描いてみながら、どんなポーズにするか検討中です。



▲プロジェクトメンバー

バリエーションに富んだ、使いたくなるようなスタンプを目指してトリくみ中です!



とりりんの姿をLINEで見られる日を楽しみにしながら話し合っています。(担当 大森)

LINEで活躍するとりりんを早く見たいです。完成が待ち遠しいです!(担当 加藤)

学生広報スタッフ 新メンバー 紹介!

かとう まりこ
加藤 真理子

地域学部地域文化学科 1年

出身地 岡山県真庭市
趣味 読書

チラシやポスターを見て学生広報スタッフのことを知り、自分もやってみたいと思い応募しました。今まで広報活動に携わったことがない初心者ですが、自分なりに鳥取大学の魅力を伝えていきたいです。精一杯頑張るので、これからよろしくお願います!

おおもり ゆか
大森 由香

地域学部地域文化学科 1年

出身地 鳥取県鳥取市
趣味 絵を描くこと、読書

大学生になり、何か新しいことを始めたいと思って学生広報スタッフに応募しました。自分も知らない鳥取大学の魅力を新たに発見していきつつ、皆さんに紹介していきたいです。広報の仕事については何も知らないもので0からのスタートですが、全力で頑張るのでどうぞよろしくお願います!

ひちわ げんき
飛知和 弦輝

医学部生命科学科 1年

出身地 群馬県前橋市
趣味 サッカー、読書、人と話すこと

入学説明会后、トリせつにて広報スタッフ募集の文字を目にしたとき、広報に興味があった自分はすぐにメールにて応募いたしました。その後、同じ学科の友達を巻き込んで、友達とともに採用されました。今後は、多くの人々に鳥大のことを自分なりの視点で発信してゆきたいです!!

めかた けんご
米ヶ田 賢吾

医学部生命科学科 1年

出身地 兵庫県三田市
趣味 釣り、読書、自転車、料理

私は、友人に誘われたのと広報スタッフに入れば様々な場所に取材に行けるといいうところに興味を持ったので参加してみようと思いました。そして、これが人生経験の足しになればいいなと思っています。未熟ではありますが、皆さんが、「これは、読むべきだ!」と思える記事を書いていきたいと思っています。



取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました!

●2016年8月発行 ●編集発行/鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ
✉ ge-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp(ご意見感想もこちらまで!)